

# こんかいのゾーン

## SCHEDULE

日付	予定
6/9 土	
6/10 日	山王祭に参加
6/11 月	
6/12 火	
6/13 水	まちあるき in 北千住
6/14 木	プロジェクトミーティング
6/15 金	シンポジウム
6/16 土	
6/17 日	
6/18 月	
6/19 火	
6/20 水	定例ミーティング
6/21 木	

## こんかいのまちづくりワード

### 地域公共交通網形成計画

平成26年に成立した改正地域公共交通活性化再生法で、従来の地域公共交通総合連携計画に代わり制度化された計画。地方公共団体が策定主体となり、地域公共交通を網羅的に見直し、コンパクトシティの実現に向けたまちづくりとの連携をしつつ、地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの方向性を検討する。いわば公共交通のマスタープランといえる計画で、平成30年4月現在、全国415の自治体・地域で策定されている。



### 都市農輪講、はじまる

メンバー全員が参加している「都市農輪講」最初の2回が5/30と6/4に行われ、初回は「Urban Food Policy における『都市農』」「都市農を都市緑地として制度的に捉える」「縮退を迎える現代における都市農業促進のための地方自治体の動き」をテーマに3人からの発表が、第2回は「都市農とコミュニティ」をテーマに4人からの発表がありました。

2回を終えて、都市農の可能性を考えるにあたっては2つの視点が重要であることを感じました。まず、都市計画の制度内部に農業を取り入れるにあたって、農業がもつ公益性をどのように評価するか？という点。市場経済の原理に従えば、住宅や業務用途に用いたほうが単位面積あたりの収益性が格段に高いという前提条件のもとでは、農業を都市的土地利用としてインストールすることは「不合理な」選択肢に留まってしまいます。経済の停滞を背景として農的土地利用の経済性が相対的に上昇し都市農が「合理的な」選択肢になりうるという原理が現象として表れているアメリカと、農的土地利用が市街地開発の過程で残存している日本の文脈の違いも慎重に考える必要があるといえます。

また、都市農を促進する活動は論理的には、全ての人に平等に良質な食料へのアクセスを確保するという「食の正義」の考え方に立脚しているにも拘わらず、実践の場面では参加者が経済的・文化的な余裕のある中流階級（欧米ではさらに人種的マジョリティ）に限定されてしまうという点も重要です。ただ、都市計画の社会的な包摂性を高めることが切迫した課題とは考えられていない日本ではむしろ、地域が同質な人々の集まりにはなっていないため、都市農活動を支えるだけの「農に興味のある層」が地域内に存在していないという課題がより深刻と言えるかもしれません。こちらのゾーンとしては、そうした興味を喚起する活動として「よせにわプロジェクト」が一役買うことに期待したいところです。

輪講が終わると夜の9時。遅くまでお疲れさまでした。

こんかいの一言▽井上：西武戦で出た坂本勇人と阿部慎之助のホームランに痺れました。▽櫻本：山王祭でお神輿を担がせていただきました。貴重な体験でした！▽木村：江戸三大祭りの1つ・山王祭で御神輿を担いで来ました。▽原：23歳になりました。職を見つけていきたいですね。▽秋月：混在WSなるものに参加しています▽時丸：山王祭に参加して、非日常な街に可能性を感じました。▽植田：岡山の後楽園に行ったので、残す三名園は水戸の偕楽園です。なぜ東京在住の間に行かなかったのか▽久保田：いくら治安の良いチューリヒといえど、夜中のバスではマリファナの香りがする乗客をしばしば見かけます